



かもまる通信

第53号

令和3年10月発行

発行：いわき総合図書館

〒970-8026

平字田町120

TEL 22-5552

「社会人専用席」をご存じですか？

いわき総合図書館では、利用者を社会人に限定した専用席を5階フロアの北側、いわき資料コーナー周辺に設置しています。

利用方法は、5階カウンターで、図書館利用カードを提示のうえ、お申込みいただく申込制です。図書館利用カードをお持ちでない方や持参されない方は、5階カウンターで、運転免許証などで氏名・年齢等を確認できれば、ご利用いただけます。

いわきに関する資料などをゆっくり調べたい時に、利用してみませんか？



おすすめの本紹介 Part 1

『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください!』 367.1-ウ

(一般書) 上野千鶴子・田房永子 著 大和書房

平成31年度東京大学学部入学式は、上野千鶴子さんが祝辞のなかで、東京医科大学の不正入試問題や東大生による暴行事件、フェミニズムに言及し、話題になりました。

この本は、その祝辞に触発された漫画家田房永子さんが、上野千鶴子さんに「女はどうしてこんなに大変なの?」、「女はどうやって闘ってきた?どうやって闘えばいいの?」等と話を伺っています。

稀代のフェミニストと若手の対談と解説から、現代社会の問題点を読み取れる本として、一読をお勧めします。

『こどもは古くならない。』 914.6-イト
(一般書) 糸井重里 著 ほぼ日

コピーライター、エッセイスト、タレントなど、多方面で活躍している糸井重里さんが、Webサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」のトップページに毎日書いている文章や、ツイッターの投稿から、心に残る「小さいことば」を選びすぐって収録したエッセイ集です。

どれも短い文章なので、どこから読んでも、どれを読んでもオッケー。きっと、じんわりと心に染みる文章に出会えるはずです。

表紙の絵本作家ヨシタケシンスケさんのイラストも、あわせてお楽しみください!

『気候崩壊 次世代とともに考える』 451.8-ウ
(一般書) 宇佐美誠 著 岩波書店

タイトルの「気候崩壊」について、徐々に悪化している地球の気候が、将来には人類にとって非常に危険な状態になると、この本では説明しています。著者の宇佐美さんは、大学の教授であり、日本における気候変動への一般的関心の低さを危惧しています。

この本の中で、気候変動の責任は誰にあるのかなどの「気候正義」という、倫理的な面やいまの切迫した状況の中で、気候変動の現状・原因・未来をやさしく説明しています。

市民の方々や若者などの間で気候変動への関心が高まる一助になる本だと思います。

『世界でいちばん幸せな男』 289.3-ジエ
(一般書) エディ・シェイク 著 金原瑞人 訳 河出書房新社

タイトルからすると幸せ満載の話かと思いきや、第2次大戦中にナチスドイツがアリア人至上主義に基づく人種差別絶滅政策（主にユダヤ人）で作った、アウシュビッツ収容所他に収容され、生き残った男の人生を綴ったノンフィクションです。

著者エディは、この本のプロローグで「つらさ」と「幸せは選ぶことができる。選ぶかどうかは自分次第だ」と語っています。

この含蓄のある言葉は、読んだ人のみが感じる言葉です。戦争を知らない世代も、もちろん戦争を知っている世代にもおすすめの一冊です。

第1回 図書館くらしのセミナー 「まちづくりで大切なこと」

震災後の取り組みや思考をまとめた『新復興論』で第18回大佛次郎論壇賞、いわき市民芸術文化栄誉賞を受賞。そのほか『地方を生きる』『ローカルメディアの仕事術』『常磐線中心主義』など、地域プロジェクト・まちづくりに関する書作が多いローカル・アクティビストの小松さんを講師にお招きして「まちづくり」をテーマに開催いたします。



日 時 令和3年11月13日(土) 14:00~15:30
 会 場 いわき総合図書館 学習室(ラトプ4階)
 講 師 小松理虔氏 いわき市小名浜在住
 定 員 大人30名(先着順) 高校生以上
 申込方法 参加申込書をカウンターに提出してください。
 10月4日(月)より受付開始いたします。
 いわき総合図書館のみ電話でも受付可能です。

いわき総合図書館 展示テーマのお知らせ(10月)

4階展示 「将棋 竜王戦いわき開催に向けて」 ☆生活・文学の707階段前	5階展示 「お金について」 ☆歴史・科学の707階段前
ビジネス展示 「話し方を学ぶ」 ☆歴史・科学の707カウンター前	健康・医療情報展示 「こころの病」 ☆健康・医療情報コーナー

特設コーナーのご案内

いわき総合図書館4階の特設コーナー(新刊図書となり)に「**認知症とともに生きる**」の展示テーマを開催いたします。

「世界アルツハイマー月間」は9月でしたが、当館が休館中であったため、今回10月に特設コーナーを設けるものです。認知症のご自身が書いた本をはじめ、関連する本を集めて展示しておりますので、ぜひご覧になってください。

おすすめの本紹介 Part 2

『ゼリー・プリン・ババロア・ムース』596.6-フ(一般書)
 福岡直子 著 朝日新聞出版

副書名は「ゼラチンを使いこなすぷるるんデザートベスト100」です。ゼラチン・パクチン・寒天で手軽に作れるゼリーやプリンなど100種類のデザートのレシピが、たくさんの写真でわかりやすく書かれています。

急いで固めたいとき、いい感じに固まらない理由、型から外すコツなどが、丁寧に解説されています。フライパンでの湯煎蒸しで作るプリンや、ジュースとゼラチンでさっと作るゼリー、大きなボウルにつくるフルーツたっぷりのぜいたくゼリーなど、おいしさと楽しさを味わう時間が作れる一冊です。

『ミュージアムグッズのチカラ』069.0-オ(一般書)
 大澤夏美 著 国書刊行会

この本の著者は、ミュージアムグッズの愛好家で、「ミュージアムグッズやショップは、博物館の思い出を持ち帰るための大切なツールで、博物館の社会教育施設としての使命を伝える手段であり、博物館が映画そのものなら、グッズやショップはそれを総括するエンドロールにあたる」と書いています。

日本中で集めたグッズは、博物館の財産である、收藏品、研究、建築、ロゴなどを生かし、その魅力や、博物館が守っている文化や自然などへと誘う「チカラ」が溢れています。

博物館っていいな、展覧会に行ってみたいなと、元気が出てくる一冊です。

『考えて、考えて、考える』796.0-フ(一般書)
 丹羽宇一郎 藤井聡太 著 講談社

伊藤忠商事の名譽理事の丹羽宇一郎氏と14歳でプロ入り後、数々の最年少記録を更新する将棋界のホープ藤井聡太の対談集です。

愛知県出身という共通点もあって、60歳以上年齢は離れているものの友人の間柄。経営者のトップと異次元の天才棋士とで語られる、心の整え方、逆境の超え方、時間の使い方、日常の学びからの人生目標などから、驚異的な勝率で勝ち続ける19歳の強さの源が見えてきます。

この本をご覧いただき、10月30、31日にいわきで開催される将棋タイトルマッチ「竜王戦」の行方を占ってみてはいかがでしょうか。

『書医あづさの手控』F-シラ(一般書)
 白戸満喜子 著 文学通信

この本は、代々続く書医(書物のお医者さん)の家に生まれた大学生の主人公が家業を継ぐために、双子の妹と一緒に修行してゆく姿を描いた物語です。

「書医」は架空の職業ですが、飛鳥時代には書物を作成して修復する「経師(きょうじ)」という職業がありました。また、現在でも文化的な書物の修復や本の修理を専門とする会社があります。私たちが現在、様々な時代の書物を読むことができるのは、先人が書物を後世に伝えるために努力し、工夫してくれたおかげです。先人に敬意を払いたくなる、本好きにお勧めしたい一冊です。